

国管理空港の収支を分析する(その2)

～ 収入と費用の内訳 ～

空港の収入と費用について、内訳と構成割合をみた。
ここでは「黒字 6 空港」と「赤字 10 空港」を対象とした。
(この 16 空港で収入の 93%、旅客数の 95%を占めている)

1. 収入と費用の内訳

- ① 収入は 1,099 億円 ;
 - ・ うち着陸料が 628 億円で収入の 57%を占める。
 - ・ 燃料税の還流分が 116 億円で 11%を占め、この 2つの租税公課で 68%。
 - ・ 土地建物賃貸収入が 235 億円で 21%を占める。
 - ・ 工事負担金や一般会計からの収入 (除燃料税) が 120 億円で 10%を占める。

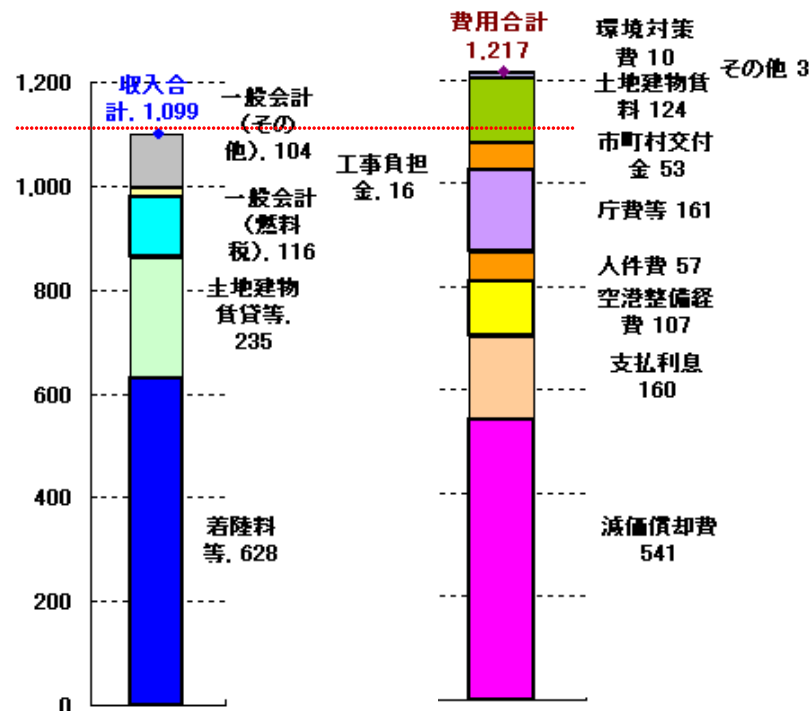
- ② 費用は 1,217 億円で、収入を 118 億円 (11%) 上回っている。
 - ・ 減価償却費が 541 億円であり、収入総額に対して約半分 (49%)
 - ・ 支払利息が 160 億円で、収入総額に対して 15%
償却費と合わせて 64%と、収入の約 3分の 2 にあたる
 - ・ 空港整備経費は 107 億円で同 10%
 - ・ 人件費と庁費が合わせて 218 億円で、同 20%
空港整備費と合わせた定常的な維持費は収入の 30%
 - ・ 土地等の借り上げ料が 124 億円で、同 11%
 - ・ 市町村交付金と環境対策費が 63 億円で、同 6%

【年間収支】

16空港計

	億円	%
着陸料等	628	57
土地建物賃等	235	21
一般会計(燃料税)	116	11
工事負担金	16	1
一般会計(その他)	104	9
収入合計	1,099	100
減価償却費	541	49
支払利息	160	15
空港整備経費	107	10
人件費	57	5
庁費等	161	15
市町村交付金	53	5
土地建物賃料	124	11
環境対策費	10	1
その他	3	0
費用合計	1,217	111
損益	-118	-11
(利益率)	-11	

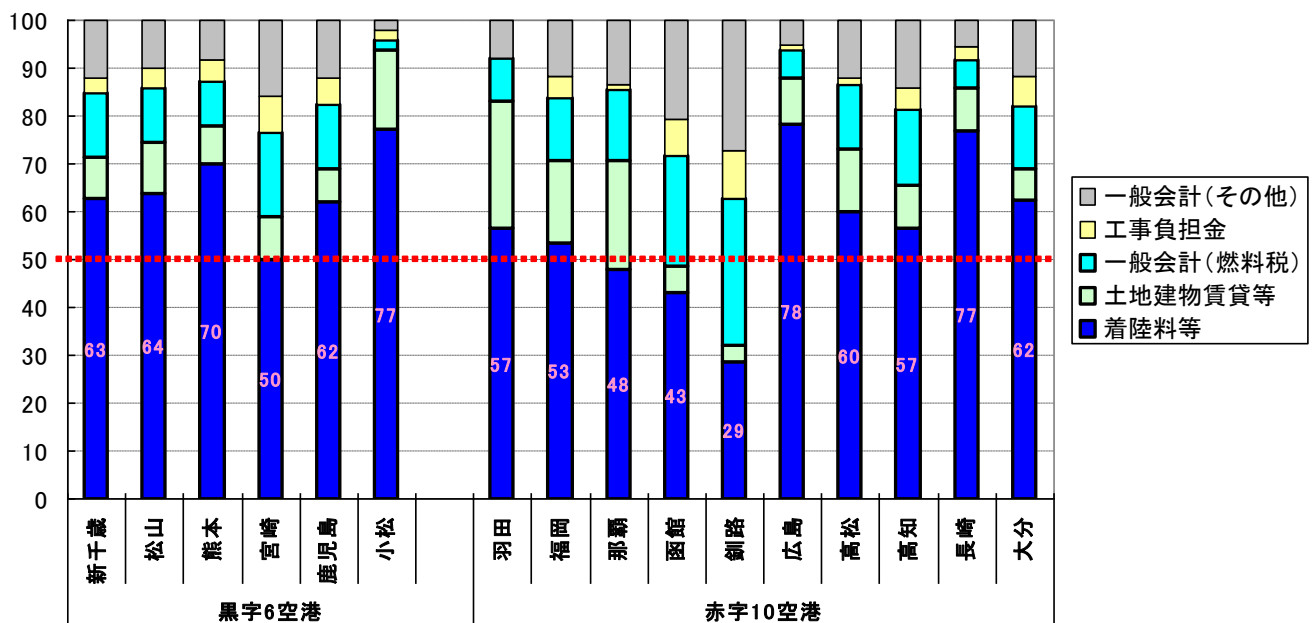
⇒前表を図示するとうなる。



2. 空港別の収入内訳

- ① 着陸料が収入の6割程度を占める。
 - ・釧路、函館、那覇は5割を下回るが、燃料税還流分を含めると6割になる。
 - ・小松、広島、長崎は8割に近い
- ② 羽田、福岡、那覇は土地建物賃貸収入が多い。

空港別にみた収入内訳(構成割合)



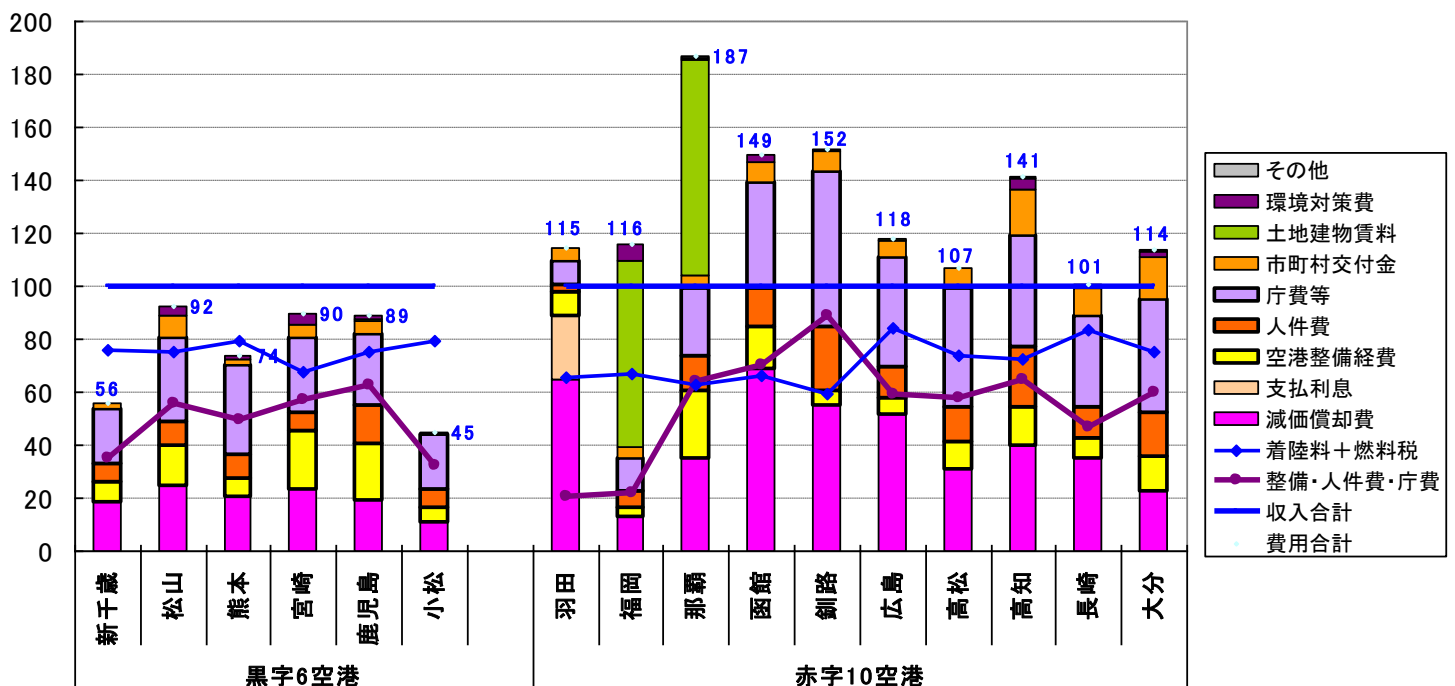
3. 空港別の費用内訳

① 黒字6空港；減価償却費が少ない（収入の2割程度）ことが黒字に繋がっている。
 他方、空港整備費・人件費・庁費といった定常的な費用が3～6割を占めている。
 小松と新千歳は、総費用が収入の半分程度であり、高い利益率となっている。

② 赤字10空港；

- ・ 羽田；減価償却費と支払利息で収入の9割を食っており、空港整備費・人件費・庁費の定常費用が少ない（収入の約2割）にも拘らず巨額の赤字となっている。
- ・ 福岡と那覇は、土地等の借上げ費用で収入の7割（福岡）～8割超（那覇）を食っており、赤字となっている。
- ・ 函館・釧路・広島・高知は、多い減価償却費に定常費用の多さが重なって大幅赤字となっている。

空港別にみた費用内訳（収入に対する割合）



以上